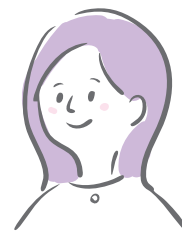


## 参加者やゲストから刺激を受け、行動し始めた Aさん(40代)

群馬県生まれ。進学で地元を離れ、埼玉・神奈川・東京と様々な場所で暮らす。夫のUターンに伴い2022年福島市に移住し、夫の家業(果樹農家)と一緒にやっている。



Aさんの移住のキッカケは、福島市出身の夫が、実家の果樹園が縮小を考えていること知り、Uターンを考え始めたことでした。もともとは東京で子育てを続けるつもりだったAさんでしたが、未就学児の子育てをしながらフルタイムで働く都会の生活に少し疲れていたこともあり、Aさんも新しい環境に移ることに前向きでした。それまで農業には全く縁がなかったAさんですが、虫も苦手じゃないし、夫と一緒に農業をやろうと決断し、2022年3月に福島市に家族で移住しました。移住後すぐに3人目の妊娠が分かり生活はバタバタでしたが、自然豊かな環境で子どもたちと過ごせる毎日に移住してよかったと感じていました。

面倒見のいい義母や、一人時間を楽しめる自身の性格のおかげもあり、移住後も孤独を感じる事が少なかったAさん。特に長女が小学校に入学する前に友達を作ってあげたいと、年長に進級するタイミングで移住したことがよかったのか、幼稚園の送り迎えの際に他のお母さんたちと話す時間ができ、人と交流する機会も増えました。子どもを通じて自分と同じように移住してきたママさんとも仲良くなり、家族ぐるみでバーベキューをするほど仲の良い友人もできました。

福島市の公式LINEで流れてきたtentenが企画運営する福島市主催の「女性向けWebスキルアップセミナー」の情報が、Aさんにとってtentenを知るキッカケとなりました。3人目が保育園に入ったのを機に、副業を考え始めたAさん。移住前にやっていた仕事はプログラミングがメインでWebに関する知識はあったため、農閑期にスキルを活かしながら自分の農園のSNS発信や副業をしたい!と思い、セミナーに参加しました。セミナー後、希望者だけがチャレンジするリール動画の実績作りにも手を挙げ、実際に福島の企業を訪問しリール動画の作成もしました。

セミナーを受ける中で、tentenスタッフに誘ってもらった「何かはじめてい人のためのtenten cafe」にも参加。「何かはじめてい」と思っている他の参加者や、すでに何かはじめているゲストとInstagramでつながり、イベント情報などをシェアし合いました。特に川俣町のまちづくり活動に携わるゲストから川俣町の話聞き、川俣町山木屋地区の田んぼリンクの存在を知り、実際に現地を訪れ、セミナーで身に着けたスキルで田んぼリンクのリール動画を作成。実際に田んぼリンクのアカウントでシェアしてもらい、いろんな方に自分のことを知ってもらおうキッカケにもなりました。

義母の勧めで参加した「ふくしま農業富女子会」もAさんにとって大きな転機となりました。農閑期に勉強会やセルフマッサージ、バス旅行などが企画され、農業に携わる女性たちが情報交換やリフレッシュの場を共有しています。その出会いもあり、今後は農家さんたちの手が回らない発信部分をリール動画やWEBデザインのスキルを活かしてお手伝いできるようになりたい!と思うように。

「うちの果樹園にもまだ加工品がないので、今後作ってそのラベルのデザインにも挑戦したいです!」Aさんの福島ライフが本格的に始まりました。農業とデザインという二つの道で、これから新しい挑戦がはじまります。

WEBスキルアップセミナーで初めてお会いしたAさん。群馬県の出身だと聞き、ぜひtentenのイベントにも来て!と声をかけさせてもらいました。セミナーにもとても積極的に参加し、リール動画作成では持ち前のセンスを発揮されていました。きっとAさんのスキルとセンスが、今後の農家さん達の手が回らないところへの手助けとなるはず!その未来が想像できて、私たちはAさんの今後が楽しみでなりません!

## 視点・マインドが変わり行動している Bさん(30代)

会津若松市生まれ。海外留学や私立高校での教員など様々な経験を積み、約20年ぶりに2017年に地元へUターン。



Bさんは会津若松市で生まれ育ち、郡山市の高校に進学しました。その後千葉県で大学・大学院に通い、アメリカでの留学も経験。私立高校の教員として教壇に立つ日々を送りました。50運動もやり抜くほど仕事に打ち込んだBさんに転職が訪れたのは2017年のこと。カンボジアでのボランティア活動に参加し、現地で日本語や英語を教える貴重な時間を過ごしました。

カンボジアでそのまま働くか、それとも故郷である会津に戻るか悩んだ末、Bさんは家族の勧めもありUターンを決意。しかし都会生活から一転した地方での生活には不安もありました。そこでBさんは自らのキャリアを見直し、地域のために何かできないか模索を開始します。地元の大学の事務員として働いた後、学校に通えない子どもたちのために家庭教師として活動。地域最安値の料金設定で、学習の楽しさを伝えようと努力しました。

前向きに頑張りがつつも、様々な不安がBさんに襲いかかります。地元では出会いもなく結婚できないかもしれない。キャリアも1から。将来訪れる親の介護やこれから1人で生きていくのか…と漠然とした不安があったそうです。

そんなBさんの人生に新たな風を吹かせたのは、会津に転職してきた石川県出身の夫との出会い。結婚をキッカケに家建て、出産・育児と新たな生活が心を落ち着かせてくれました。

キャリア中心だった生活から家族との時間に重きを置くことにシフトしたBさんは、2人目の育児をしながら「バリバリ働きたいけど家族との時間も大切にしたい」というジレンマを抱いていました。そんなとき自分と同じような転入女性たちが集まる「tenten cafe」のことを知り、他の人はこのモヤモヤをどう解消しているのか聞きたい!と参加。ここでの出会いがBさんを再び前向きにさせたのです。今までは馬鹿にされてしまうのではないかと、周りに自分のやりたいことを話せずにいました。しかしtenten cafe大人会ではみんながやりたいことを話していて、自分の考えを話すともみんなが肯定し、背中を押してくれました。同じようにモヤモヤを抱えつつ、それでも前向きに動いている女性たちとの交流で、働くことにおける視野が広がり「自分の知識や経験を地域のためにシェアしたい」と思うようになったのです。現在の職場である地元の学校で非常勤として働く決断も、tentenでの出会いや他の参加者の言葉が後押しとなりました。

今Bさんは新たな夢を描いています。外国にルーツを持つ子どもたちやその保護者に日本語を教えたいという思いです。地域の幼稚園にも外国から来た子どもたちがいることを知り「私が支援できることがあるのでは」と考えるようになりました。わらべ歌など日本の文化も一緒に伝えたいというBさんの想いは、地域への思いや未来への希望に満ちています。

「モヤモヤしたっていい」 Bさんの挑戦は、始まったばかりです。

まだ1歳にならないお子様と一緒にtentencafeに初参加してくれたBさん。子育て情報を交換したいのかと思いきや、キャリア形成や仕事に関して熱量を持って情報交換をされていたのが印象的でした。特に大人会で、実は…と地域貢献活動に対する秘めたる思いを話してくれた時のキラキラした目は忘れられません。今は子育てと復帰したばかりの仕事の両立に頑張っているBさんですが、いつか地域活動でも活躍するのは間違いない。tentenもそんなBさんを応援します!

## 視点・マインドが変わり、動き始めた Hさん(40代)

香川県生まれ。進学で地元を離れ、東京・オーストラリア・石垣島など、さまざまな土地を渡り歩いて、結婚を機に2015年福島市へ移住。夫の家業(果樹農家)と一緒にやっている。



東京で会社員として働きながら、夜は神楽坂の料亭でのアルバイトをしていたHさん。農業は未経験でしたが、とても興味のある仕事でした。当時、福島市に住んでいたパートナーとの結婚を機に福島市へ移住。パートナーと共に農業を継ぐことには全く抵抗がなく、軽い気持ちで移住をしました。移住して間もない頃は職業訓練に通いながら、美容室や趣味など必要なことがあれば週末は東京に行くという生活で、忙しい毎を送り、寂しいという気持ちを抱くことは特にありませんでした。

そんなHさんを大きな転機が襲います。妊娠、長女の誕生を機に、自由に身動きが取れなくなり、状況が一変したのです。慣れない暮らしに家事と育児、夫の長期入院や同居家族のサポートまで重なり、大変だったHさん。その大変さを吐き出せる友人が福島には1人もおらず、孤独を感じるようになりました。福島に「香川県人会」などがいないか、検索しても見つけれず落ち込み、どこに行けば人と出会えるのか、占いを頼ってしまうほどHさんは追い詰められました。

幼稚園や習い事で挨拶を交わす程度の子ママ友はいるものの、なかなか深いつながりを持つ友人はできませんでした。そんな日々が続き、大きく状況が変わらないまま気付けば移住して9年が過ぎていました。9年経っても福島には馴染めていない…と感じていた時、ママ友からtentenのWELCOMEワークショップの事を教えてもらいました。tentenが運営するお店「ent」のことは知っていたけど、移住者向けのイベントをやっているとは思っていなかったHさん。移住者が集まる場に参加してみたい!と思ったものの、一旦は躊躇。実は、過去に友達に欲しいと参加した郷土料理教室で、年代も全く違い、すでに友人同士でグループができている状況で居場所がなく、途中退出した経験を思い出したのです。またアウェイだったら…という不安もありましたが、移住者の女性対象という言葉に惹かれ思い切って参加してみると、想像以上に楽しい時間に。

「子どもの話じゃなくて、自分自身に興味を持ってもらえたのが嬉しかった。ただ自己紹介するだけでなく、自分のことに対して興味持って質問してもらえたのが新鮮で嬉しかった。」というHさん。東京にいた頃から趣味でやってきた阿波踊りを、福島でも連日入って続けているということを知り、話すこともできました。同じように海外経験があったり、他県への移住を経験したりした人に会えたのも移住して以来、初めての出来事でした。ワークショップ後も、ランチ会や飲み会が計画され、参加者同士のつながりがどんどん深くなりました。なかなか勇気が出ず誘われる側だったHさんは、福島でできた友人を初めて自分からライブに誘うこともできました。今までは子どものための予定ばかりだったけど、tentenを通して誘える友人ができたから、これからは“自分の予定”を持ちたい!と思うように。

仕事の面でもHさんは新たな挑戦を語ってくれるようになりました。「あるイベントに出店したことがきっかけで、自分たちの農園でもイベントを企画してみたいと思うようになりました!出荷しているだけでもあったいなって。」長年抱えていた「何かやりたい」という気持ちが、福島で形になるようになっていきました。約10年の福島生活を経て、今ようやくHさんらしい福島ライフの幕が開きました!

tentenスタッフの紹介でワークショップに参加してくれたHさん。2回目からの参加で、紹介してくれた友人も会場にはいないと知り、きっとかなり緊張しながらも頑張って来てくれたんだろうな…と。

「9年経っても福島に馴染めていない」と感じていたHさんがtentenと出会って人生がよい方向に向かっていく気がすると言ってくれて、とっても嬉しいです!一緒に楽しいこともっとしていきましょうね!!

## 仲間から刺激を受けたことで動き出した Rさん(40代)

東京都生まれ。父の実家が福島にある縁で高校まで福島で過ごし、仙台へ進学。その後福島市や沖縄で働き、結婚を機に東京へ。長女を出産後家族で2023年福島市にUターン。



福島への移住を考えたキッカケは、生まれたばかりの娘の教育環境でした。Rさんの妹も東京で子育てをしており、「お受験」や「塾」の話を知っているとRさんの思い描く教育環境との違いを感じていました。夫も教育熱心だった家庭環境で育ったことがあまりいい思い出ではなく、子どもにはのびのびとした環境を与えたいと思っていたことも、Rさんの実家のある福島市への移住を後押ししました。福島市の行政機関で働く友人から、大玉村では移住支援金が出ると聞き、それなら福島市も何かあるのではと調べたRさん。市役所や県に問合せ、福島市に帰省したタイミングで県北地方の移住コーディネーターと面談。移住コーディネーターがtentenを紹介してくれ、スタッフの西村と面談をし、移住前にtentenとのつながりができたのです。

その後2023年に家族で福島市にUターン。移住後の生活は東京とは大きく異なり、車での移動が中心になりました。運転ができるRさんにとっては、時刻が決まっているバスや電車を使う必要がなくなり、自分のペースで動けることに快適さを感じていました。地元の友人とも会いやすくなり、休日には友人を招いてバーベキューをするなど福島での生活を楽しんでいました。しかしUターンして気付いたのは、福島で育った人たちが「福島は何もない」と言うことへの違和感でした。Rさんは外から戻ってきたからこそ、福島の人の温かさや住みやすさを感じていたのです。

元々人と関わるのが好きなRさんは、ママ友を作りたいと子ども支援教室やベビーマッサージに通うことで、他のママたちと交流する機会を増やしました。しかしそこでの会話は子どもの話題の当たり障りのない内容ばかりで、お互いの過去の経験ややりたいことなど自分自身について話すことはありませんでした。そんな中、移住前に繋がっていたtentenのWELCOMEワークショップの募集があり参加。tentenのワークショップでは自分自身の事を話す自己紹介の時間があり、同じように移住してきた人たちの経験を聞ける環境に魅力を感じました。そこで出会った人たちは、「福島には何もない」と言わず、福島に何かがあるのか、魅力を探しに来ている人たちでした。気の合う仲間と出会ったことで、ワークショップ後ももっと仲良くなりたい!と自らランチ会や飲み会を企画して積極的に交流を深めていきました。

「声をかけたらみんながノットしてくれて、ランチ会や飲み会でさらにお互いのことを知り、交流できることが楽しい!」とワークショップで一緒になった仲間積極的に連絡をとるRさん。外から来た人たちから自分にとって経験のない話や興味深い話が聞けて、刺激をもらっています。

tentenのイベントに参加して、人生を楽しんでいる人が多いと感じたRさん。引っ越しや子育てで忙しく、気付けば自分のことは後回しに。tentenのスタッフなどの、子育てをしながら社会で活躍している姿にも刺激を受けました。今後は父の仕事を手伝いながら資金を貯め、学びを深めて地域に還元できることをしたいと考えています。

県外にも友人が多いRさん。福島でのつながりを広げ、外の友人たちに発信し、友人を福島に招きたいという目標を持つようになりました。今年は以前住んでいた沖縄に行き、友人の音楽ライブでフラダンスを踊る予定。娘が幼稚園に通い始めたら、沖縄時代に楽しんでいたハンドメイドも再開し、いずれ東京時代に休学した学びも再開したい!と思っています。

外の世界を知ったことで福島の魅力や人のあたたかさを実感したRさん。これからも新たなつながりを広げ、学びを深めながら、Rさんらしいチャレンジが始まります!

初めてお会いしたのは、まだRさんがUターンして来られる前でした。3回連続のワークショップに参加後、同じワークショップに参加した仲間積極的に声をかけてランチ会や忘年会を企画してくれて、気付いたらみんなの頼れる幹事になっていました。これからもRさんらしく福島の人と外の人をつなぎ、盛り上げ隊長としてみんなを引っ張ってってくれることでしょう!

## つながりが広がり、地域プレーヤーとなっていく Sさん(60代)

福岡県生まれ。進学を機に地元を離れ神奈川に長く住み、その後さまざまな土地で多くの経験を積んできた。縁あって2023年二本松市に移住。



神奈川で出会ったパートナーが二本松へのUターンを考え始めたころ、Sさんも年末年始の休みを利用して、二本松を訪れ、町の雰囲気や様子を見に行ったりもし、環境の変化が大きくなるなど予想していました。正式にパートナーのUターンが決まったころ、自身に病気が発覚し、治療を優先することに。移住するかどうか悩んでいたSさんでしたが、療養のことを思うと一人で神奈川に留まることは考えられず、移住を決断しました。

これまで福祉関係の仕事に携わってきたSさんは、福島でも介護や福祉関連の仕事に就きたいと考えました。しかし運転ができないことが大きな壁となり、不採用が続きました。神奈川とは違い、福島では運転ができないと福祉分野では採用してもらえないという現実と直面したSさん。そこで自身の得意なピアノを活かし、障がいのある子どもやグレーゾーンの子もたちが安心して通える小さなピアノ教室を自宅で始めました。

移住後、外から来た人に対する地域の方からの壁を感じることもあったSさん。地域の伝統に対する強い誇りや、地域への深い想いを持たれている方もいて、うかつなことは言えないと慎重になり、行動範囲が狭くなっていました。しかし行きつけになったカフェのオーナーさんやピアノ教室の生徒の保護者などとの交流を通じて、少しずつ街の情報が入るようになっていきました。車がなくても自力で行ける場所ならどんどん開拓し、お気に入りのカフェなどで自分を癒す時間を持つようになりました。地域にも少しずつ知り合いが増えていきました。

そんな中、知り合った地域の方から「tenten」のことを教えてもらいます。二本松でまち歩きがあると聞き「移住者対象」という言葉に惹かれたSさんは、同じような境遇の人とつながりたい!とすぐに申し込み。翌年にはWELCOMEワークショップにも参加しました。tentenを通して出会う人たちは移住者同士だからこそ共感できることが多く、楽しく話をしながらつながりを広げることができました。特にWELCOMEワークショップでは年齢も近く、出身も西日本と気質も似ていた気の合う友人をつくることができました。

tentenでの経験を通してさらにいろんな出会いを持つことができたSさんは、障がいに対する認知を広げるための活動を本格的に始めたいと考えるようになりました。ピアノ教室を通じて、音楽を「好き」から「強み」に変えるサポートをし、療育にも取り組んでいきたいと思っています。

その想いを実現すべく、2024年には自閉症のピアニストを招いたコンサートやマルシェを開催。今後はコンサートだけでなく、障がいのある子どもとその親が安心して集まれるサロンも自宅のピアノ教室を利用して始動。ワークショップで出会った友人を講師に招き、ヨガで身体を動かしながら保護者のケアや横のつながりを作る場を提供する予定です。保護者や支援者といった当事者側からの発信をして、理解を広げていきたい!と今後はCanvaやInstagramの運用についても勉強を進めたいと考えています。

地域との壁も、自分の強みを生かすことで乗り越えていくSさん。彼女の音楽と福祉への挑戦は、二本松に新しい風を吹き込むに違いありません。

今までにいろんな経験を積んでこられたSさん。それでもなお新しい情報やつながりを開拓されていて、会う度にそのエネルギーに刺激をもらいます。お店の場所やメニュー以外の情報もよく教えてくださいるので、きっと出かけた先でも店主の方とたくさん会話をしながら情報を得てこられているんだろうなと感じます。Sさんのさらなる活躍が楽しみです!